

葛飾柴又帝釈天散策

—2年越しにようやく実現—

9月16日、天気晴れ、参加者11名で、当日午前9時半丁度に、全員が一人も遅れることなく寅さん像、さくらさん像の下に集合した。日程に従い、まず柴又帝釈天に向かった。ここは寅さんが産湯を使ったお寺でも有名で、日蓮宗の大本山 中山法華経寺の分院として建立され約400年が経過する古刹でもある。分院という事で、ご本尊は何と版画を何枚も刷った後の平版でしかも真っ黒、何が彫ってあるのか全然分からない。ご本尊には失礼だが、普段はカーテンの後ろに隠されているがそれも当然かと思った。その後、お昼まで多少時間があったので一行は「矢切の渡し」へと向かった。棧橋に丁度渡し船が停泊していたので、全員が乗り込み船は即席の「貸切り遊覧観光船」となった。お待ちかねのお昼は、川千家の特別料理で、うなぎを中心とした全6品の会席料理。美味しい酒も加わり大いに盛り上がり、予定時間を40分もオーバーした。午後は寅さん記念館に向かった。入り口で「フーテンの寅」の撮影で使われた「くるまや」のセットが入館者を出迎えてくれて、一瞬にして寅さんの世界に入った。今回の柴又散策は「いつでも行けるから後回し」という事で、柴又帝釈天、寅さん記念館に初めて来たと言う方もいた。特に柴又帝釈天のご本尊に至っては、初めて拝顔した方が大半であった。我々日常生活でも「いつでも行ける、いつでも出来る」と思うと、ついつい後回しになって結局何も実行しない事が多い。「小さな一歩を踏み出す習慣が大切だ」と感じた散策でもあった。

会員交流員会委員長 古畑克巳（69期）



帝釈天駅前、寅さんの銅像と一緒に



柴又帝釈天門前にて